

Jネットに期待すること

上越市企画・地域振興部長 三浦元二

私とJネットの係わりは、平成十年の上越市東京事務所勤務からではなく、実はその前年、平成九年七月のJネットの発足式からだったことに今回改めて気づきました。当時、私は（今やJネットの皆さん）愛顧の湧つたり村やヨードル金谷、正善寺工房等の建設などに携わっており、豊かな自然や安全・安心な農産物を活用した都市部との交流促進による地域振興に取組んでいた頃であり、Jネットはその有望な「ターゲット」であったことから、そのPRにアルカディア市ヶ谷に向いたのです。そして、翌年の東京事務所勤務の二年三ヶ月と、平成十四年の企画課での『再会』から今まで、通算約六年にわたり事務局としてJネットに係わってきたことになり

ます。この間、佐久間昇二初代会長から太田四郎会長、そして現和久井博会長の

ほか、多くの皆さんからの温かくも厳しいご指導をいただきながら、会員の増とJネットの活動の充実を目指してきました。

ふるさと上越が大好き！
ふるさと上越との交流をもっと深めたい！
ふるさと上越の情報をもっと知りたい！
上越にゆかりのある人たちと交流の輪を広げたい！（JネットPRチラシから）

早いものでJネット設立から八年。このようなふるさとへのいっばいの思いをお持ちの会員の皆さんと、ふるさと交流会、Jネットサロンなどの会員同士の交流のほか、文化講演会やふるさと大使、棚田オーナー制度、市の各種委員会等への参加など、会員とふるさととの交流を通じ、

ふるさと上越の発展の役に立ちたい！
という、「ふるさと」の応援団」として、幅

広い活動を行っていただいております。

この間、私が多くのJネットの皆さんから教えていただいたこと、そして感じたことは「ふるさとへの真摯な思い」でした。これはふるさとを離れて暮らしたことがなく（学生時代や東京事務所勤務はもちろん別）、「ふるさと」の懐かしさ、暖かさなどを実感できない私にとっては羨ましくあり、またその重さなども到底わかりえなかったのではないかと考えています。

上越市は今年一月、十三町村との合併を果たし、間もなく一年になろうとしています。地域が約四倍に広がり、歴史や文化、風土等が異なる約二万人が、今、新しいまちづくりを進めています。しかし、これまでもそうであったように、まちづくりはそこに暮らす人だけではなく、そのまちを訪れる人やそのまちをふるさととする多くの人たちの思いや願いの結晶であるべきものと考えています。そうしたことから、私たちはJネットの皆さんの思いに応えるまちづくりを行っていかねばならないと考えています。

先日、気仙沼市に出張した際、Jネットのふるさと大使と同じ取組みの「リアスさんりく気仙沼大使」についてお話を伺ってきました。現在七〇人にお願しているとのことですが、その中の約半数



が気仙沼市出身以外の著名人でした。その話を聞きながら、現在七十五人の大使全員がJネット会員であり、それぞれお住まいのまちで、「自分の」ふるさとをPRしていただいていることに深い敬意と誇りを感じていました。

Jネットの皆さんからは、これからもふるさとへの深い思いをお持ちいただき、ふるさととのまちづくりに「がんばれっ！」と一声をかけていただいたり、春の高田公園の夜桜、夏のお祭り、秋の紅葉、冬の日本海のほか、それぞれの記憶にある「あの日・あの場所・あの味を訪ねて、時にはフラーとお出でいただき、そんな普段着の中でふるさとを見つめ続けていただければと思っています。